

みんなの環境

第22号 2009年8月4日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/

持続可能な循環型社会をめざして

代表 狩野光子

容器包装に係わる分別収集及び再商品化の促進に関する法律が、平成12年4月完全施行されてはや9年、厚木市でもいよいよ、プラスチック製容器包装の分別回収が10月19日からはじまります。厚木市民が排出するごみは、1日ひとりあたり平均1,108g(平成18年度)、神奈川県平均では1,066g、全国平均では1,116gとなります。しかし、この一人ひとりが積み重なると、全国で一般廃棄物だけでも年間52,036,078トンになり、これを2tトラックで運ぶと地球を3周以上することになります。産業廃棄物はこの8倍にもなります。いったい、毎年これだけのごみはどこへ行くのでしょうか。ゴミ対策協議会のメンバーとして、真に豊かで安心できる循環型社会になるよう、いま一度、共通の認識をもって、あつぎ環境市民の会は日々の活動を進めてまいります。

1) 私たちがどれだけの資源を採取し、消費して廃棄しているか? (平成13年循環型白書参考)

《年間の総物質投入量が20.4億トン》

- ・輸入資源・・・6.8億トン
- ・輸入製品・・・0.6億トン
- ・国内資源・・・10.7億トン
- ・再生資源・・・2.2億トン

《一年後の統計》

- ・エネルギー消費・・・4.1億トン
- ・廃棄物・・・3億トン
- ・散布・揮発・・・0.9億トン
- ・食糧消費・・・1.3億トン
- ・輸出製品・・・1億トン
- ・蓄積・・・10.6億トン

となり、国内に投入される資源やエネルギーの4割が環境に放出され深刻な地球温暖化、大気、水質汚染の原因になっています。



頑張る地球に心配はないか?

2) ライフサイクルアセスメント(LCA)で判断する思考回路が重要!

1人、年360枚以上使用しているといわれるレジ袋ですが、1枚10gのレジ袋で57gのCO₂が排出されているという。原料の原油に辿れば、採掘、輸送、貯蔵、精油場の常圧蒸留装置で分留し、揮発油24%、灯油12%、ナフサ9%、軽油17%、重油27%、(ナフサ エチレン プロピレン ブタン プチレン、芳香族炭化水素を生産しその中のエチレンからレジ袋のポリエチレン)ができるという。私たちの手の届くまでに、様々な過程をへて、上記のCO₂を排出している事など考えたこともないのが普通だと思いますが、総合的に採掘から、破棄、分解しないごみが及ぼす自然への影響、そして、あと半世紀もすれば化石燃料は無くなるなどトータルで判断する思考回路をもつことが、今の環境問題解決への重要なことだと考えます。

次号へ続く

厚木市ごみ対策協議会総会の報告

鷲谷雅敏*1

本年度から、あつぎ環境市民の会から厚木市ごみ対策協議会（略して「ごみ対協」または「協議会」と呼びます）に2名が参加することになりましたが、さる6月19日に総会が開かれたので概要をご報告いたします。

この協議会は、目的として「ごみの排出量抑制、資源化、減量化等を総合的に調査研究し、ごみ対策に関する諸問題に寄与する」となっています。また各種の関連団体の代表者59名で組織されており、経費は市からの委託金で賄い、事務も市の担当主管課である資源対策課が受け持っています。

構成団体として自治会連絡協議会、小中学校校長会、商工会議所、公民館長、子ども会育成連絡協議会等の地域団体、あつぎ環境市民の会のようなコミュニティ団体など約50団体で構成されていて、協議会会員は同時に「あつぎエコライフメッセンジャー」(*2)としての活動を担っています。



副会長に狩野光子代表を選出

総会では、最初に本年度更新の役員（任期は2年）の選出を行った結果、副会長に当会の狩野光子代表が選ばれました。また、協議会の中は、ごみ再利用推進部会、減量推進部会、広報啓発推進部会の3つの分科会があり、私（鷲谷）は広報啓発に所属することになりました。その後、昨年度の事業報告に引き続いて本年度の計画が提案され基本的にはこれまでの取り組みを続けるとともに10月からの「ごみ減量化・資源化新システム」や「あつぎ環境フェア」に協力することが決まりました。

ごみ・資源のモデル回収を市内の3ヶ所で行っていて、これまでの回収資源量は半年の実績で前年比186%と、秋からの本格的な取り組みにかなりの期待が出来そうです。

それにつけても「もえるごみ」という言葉が気になります。本来、資源になるものを分別してから、残りを「ごみ」として処分する。そして処分の方法として、今は焼却していますが、資源とごみの優先順位から見ても焼却処理は下位にあるべきです。どちらかというとう仕方がないから燃やしているという考えが大切です。ごみの出し方のガイドブックには、「もえるごみ」と「もえないごみ」の表示になっています。

意識としては「もえるごみ」ではなくて「もやすごみ」に変えるべきですね。

(*2) あつぎエコライフメッセンジャーはエコライフの実践を市民に宣伝・推進する人を選定することになっていますが、実際にはごみ対協の構成員に委嘱されています。

*1(さぎたに・まさとし= あつぎ環境市民の会 厚木市ごみ対協広報啓発推進部会)

～ 私たちの活動 ～

厚木市内の二酸化窒素濃度調査 - 3年間のまとめ -

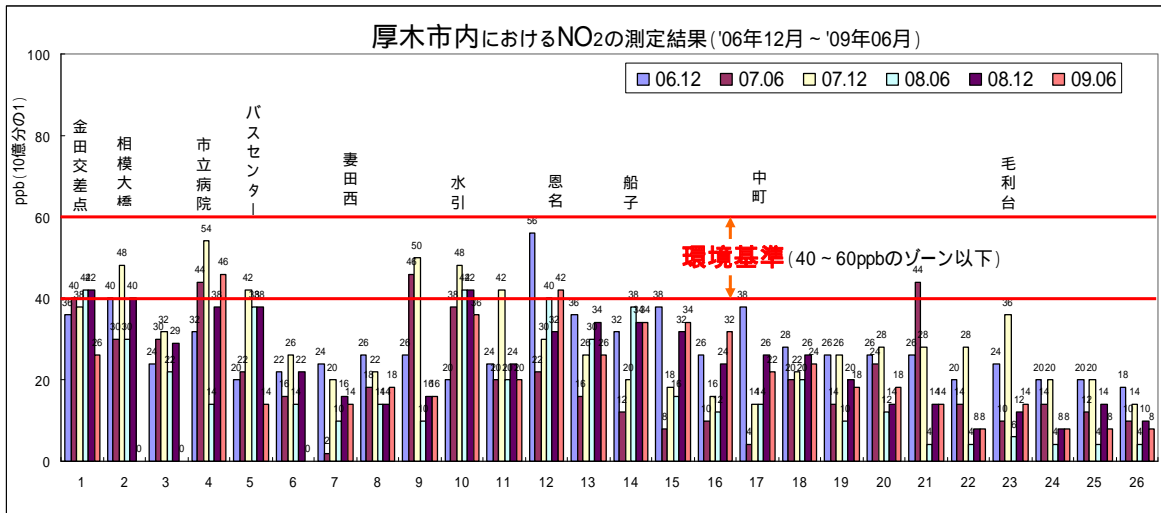
当会では、毎年6月と12月に厚木市内のNO₂(二酸化窒素)濃度を測定しています。これは、(特)神奈川県環境学習リーダー会の大气部会が実施する県下の二酸化窒素の一斉測定に参加している活動です。2009年6月は次の日程で行われました。

- 5月30日(土)： 測定準備(吸収液を浸み込ませたろ紙のカプセルへの充填)
- 6月4日(木)18時～6月5日(金)18時： 測定地点でのカプセルの暴露(24時間)
- 6月14日(日)13:30～： NO₂の定量分析(神奈川県環境科学センター)

会報「みんなの環境」第17号では、2005年12月～2008年6月の、6ヵ月ごとの二酸化窒素(NO₂)濃度の測定結果を報告しました。今回は、直近3年間の結果をまとめました(下図)。

'06年6月の結果では、市立病院、恩名、船子で環境基準オーバー、すなわち60ppb以上の濃度でした。'06年12月からの3年間では40～60ppbのゾーン内になることも少しありましたが、環境基準には適合しています。二酸化窒素の排出量が改善されてきたことが分かります。このことは、環境行政の定着や排ガス技術の課題が解決されてきたことによると考えられます。

なお、国道246号線沿いから外れたところ(横軸の6,7,8番の地区など)はゾーン以下でした。このことは交通量が246号線と大きな差があることによると考えられます。交通量がさらに少ないと思われるところ(22～26番の地区)は全く問題ないといえます。(藤田 実)



仲間の活動紹介

～ 落書き消し ～

成瀬博志*

地球環境問題に直接関係ないように思えますが、環境問題は一人ひとりの生き方に通じていきます。落書き消しは、描いた人に対してもモラルや道徳が伝わればと思い、毎月2回、日曜日の一時間行っています。溶剤や薬品も最近では環境に配慮したものが出てきています。特に、職人たちの集団で行っている活動は三田道路建設地で(写真)のように大型の落書きも一時間で消えてしまいます。厚木市内で落書きのひどい場所がありましたらご一報ください。

*(なるせ・ひろし=あつぎ環境市民の会 住環境工房社長)



～ 私たちの活動 ～

依知の自然から地球環境を考える

依知南地域子ども教室を応援

依知南公民館主催の「依知南地域子ども教室」が7月27,28日の両日、地域の小学1年～6年生を対象に「依知の自然から 地球環境を考えよう」と題して自然環境学習会を開催しました。青砥航次、高橋弘毅、狩野光子、角田優香(かながわワンダークラブ)が講師として応援しました。

参加者は延べ20名で第一日目は、童謡「めだかのがっこう」や、わらべうた遊び「あんたがたどこさ」などで学習会を盛り上げ、また野外活動では「見る、嗅ぐ、聴く、味わう、触る」の五感を養う目的を説明しました。



アオダイショウのしっぽはどこからか？

初日は、依知南公民館周辺と浅間神社を選び、移動途中の気になる動植物を観察、特徴などみんなで考えました。

スズメガの幼虫(どこで息してる?)、セミの抜け殻(セミの種類見分け方...触角に毛が多い アブラセミだ)、電柱のそばにいたのはキツツキの仲間コゲラです。

神社ではまずお参りをしました。アオダイショウ見つけたぞ(どこで呼吸している?尻尾はどこからだ?舌を観察、開口する時は咬みつくぞ...)「浅間神社自然観察ビンゴ」を実施(花数、鳥種類、セミの声種類、実のあるもの、人間がよごしたごみの数、ツルのある木や草の数などを境内で探す)

袋の中に何があるかを当てる「五感発揮ゲーム」では、なぜそのような判断をしたかを講師に説明する。また気になる葉っぱ、抜け殻、小枝など3個収集し画用紙に貼りつけ描画の一部にした絵画も作った。夏休み工作にもなるかな.....。身近な場所だけでも多くの植物、生きもの?がありこのような絵にも利用できること。また、その植物などに私たちも生かされていることを気づいたことでしょう。

2日目は、「ジャンケンポン・ポン」遊びで負ける難しさを体験しました。太陽光エネルギーを利用したソーラークッカーのデモで太陽光の利用原理を学習しました。初日の野外活動まとめとしてパワーポイントを使い自然観察ビンゴの答えを学習し、地球温暖化の話と、自分たちの暮らし方の工夫が大切であることを一緒に考えました。また、実用的なロープ結び(まき結び)に挑戦し、全員がマスターしました。最後におてんとうさまの恵み、ソーラーゆで卵を大騒ぎで試食し太陽光の大切さを実感しました。(高橋弘毅)

みんなの環境 第22号 2009年8月4日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 狩野光子

電話/FAX 046-224-5010 e-mail: mitsuko-karino@ayu.ne.jp

事務局 〒243-0817 厚木市王子2-14-3 山中延明 方

電話/FAX 046-224-9693 e-mail: ANA40480@nifty.com

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 A:2000円 B:1000円)

(C)あつぎ環境市民の会 2009